

岡山県立津山東高等学校 令和7年度 第1回 学校運営協議会 議事録〔概要版〕

令和7年7月24日（木）13:00～14:30

津山東高校会議室

○出席者 委員10名（校長含む）中8名が出席

学校側出席者：教頭・各部長・各科長 8名

○決議事項

（1）会長・副会長の選出

会長：長谷川 勝一（美作大学副学長）、副会長：門長 儀紘（ラビット代表取締役）

（2）令和7年度学校経営計画及びスクール・ポリシーの承認

○議事

・年間計画および取り組み内容について

〔協議の概要〕

（委員）学習支援部の具体的計画の中で、現状分析として昨年度の後期の公開授業参観率が低調だったと言われるが、動画を取って後で見ることできるのでは。また、教育環境部に質問だが、年間に図書をどのくらい購入しているのか。

（学校）昨年度は研究授業という形ではしていないが、今年度はテーマを持って行った授業について、教頭が動画撮影をして保存し公開している。公開授業週間は気軽に見てほしいという思いで、10分でも15分でも他の先生の授業を見ていただきたい主旨で行っている。忙しくなっているが、そのくらいの余裕は持って授業を見て歩いてほしいと思っている。

（学校）PTA 会計の図書費+県の予算で専門書や話題の書籍、学習に役立つ本を随時年間通して購入している。購入冊数については資料を持ち合わせていないため、答えることができない。

（委員）次回に教えていただければ。

（学校）次回お伝えする。

（委員）行学について、3年間のプログラムが組まれているのが大きな特徴だと思っている。地域協働活動コーディネーターとして5年ほど関わったが、生徒に身に付けて欲しい力を3年間で力をつけさせ、ステップアップできている。よいものは継続、よくないものはブラッシュアップしており、改善点は見えている。行学は本校の特徴的な取組であるため、特色を生かし開かれた学校として、2年生の成果報告をする「行学発表会」を保護者や地域の方に公開できればよいと思う。

（学校）昨年度は美作大学の協力で、100周年記念館の大ホールをお借りし開催した。空調設備があり、階段状でステージもあるため、発表する生徒は堂々と発表し、聞いている生徒からも活発な質問が出てとてもよい会となった。今年度も美作大学から同じ会場を使ってもよいとお言葉をいただいている。保護者や地域の方にも見ていただきたい思いはあるが、この会場では難しく、津山市のホールを借りるとなるとお金も掛かってくる。今後に向けて学校でも検討をしていきたい。

(委員) 会場で見ただけでなくオンライン公開という方法もあるのでは。

(学校) 検討していく。

(委員) 行学はよい取組だと思うし見たいと思う。内容の精査も必要かと思うが、Instagram などもあるのであれば配信などもできるのでは。医療従事者は、目の前の患者様のために一生懸命になるため良くも悪くも視野が狭くなりがちなので、このような行学は視点を広げる機会となる。看護科の生徒だから看護に関する行学を行うのではなく、むしろ視野を広げてやってほしいと思う。

今年度、看護科の志願者数があまり多くなかった。医療についてはあまり明るい話題がないが、どんな職業であっても大変さはあるが楽しい面もある。アピールをしてほしい。

(学校) Instagram や HP のブログなどで行学や授業の取組を紹介させてもらっている。

(学校) 行学は食物調理科と看護科は科独自に行っており、それぞれの科に関する内容で行っている。何年か前から普通科・食物調理科・看護科が一緒にできないかという意見もあるが、看護科は3週間の臨地実習があり一緒に活動ができない時期があるため難しい。また、普通科は1年生から行学を行っており探究活動をスタートさせているが、食物調理科・看護科は2年生からのスタートとなる。これらのことから、どうすれば一緒にできるかを検討しているところである。一緒に行うことでそれぞれの生徒がよい刺激を受けるのではないかと考えている。

(委員) 看護師の不足が地域の課題にもなっており、津山東高校だけでなく、その他の看護科でも同じ状況が見られる。社会的な問題になっている。

(委員) コロナ禍の報道などで、どうしてもつらい、大変というイメージがつきつつある。それだけではないということを伝えていく必要がある。

(委員) 看護師だけでなく、教員も志願者が出にくい状況である。つらい、大変というのが先行してしまうと、親が避けてしまう。やりがいを伝えていき、中学生に向けての生徒募集につなげてほしい。

(委員) 私自身卒業生であり、卒業後も「行学一如」を覚えていて、今となってあらためて意味を考えさせられている。生徒の時はそこまでではなかったが、今、生徒は「行学一如」の意味を落とし込んでいるのか、この意味について触れる場面はあるのか。

(学校) 入学式や始業式・終業式などの式典では話をしていくようにしている。校内に石碑もあるので、生徒は目にしている。生徒はなんとなく意味は分かっているようである。総合的な探究の時間を本校では「行学」と呼んでいるので、行学や授業の中で、意味をしっかりと落とし込んでいきたいと思う。卒業生からこのようなことを言ってくれるのはありがたい。

(委員) 最近になって「行学一如」の意味を考え、あらためてよい言葉だと感じている。生徒へしっかり伝えていただきたい。

オープンスクールの申込者が今年度 750 人と昨年度より増えているが、何か取組をした結

果なのか。

(学校) 入学した生徒へ1学期中間考査頃にアンケートをした結果を見ると、オープンスクールで体験授業や先輩との座談会に参加したことで、この学校に入学したいと決めたとの回答が多かった。また、先輩からの口コミも中学生の耳に入っているようである。中学校での進路説明会でも、まずは学校に見に来てくださいと宣伝しているため、機会があれば来たいと思ってもらった結果が、オープンスクールの申込者の伸びにつながっているのではと感じている。

(委員) 後川沿いでの接触事故は最近聞いてないが、日暮れが早くなったら危ないので、引き続き後川沿いは通行せず大通りの歩道を通行するよう指導してほしい。

(委員) 自転車も反則金を支払うようになったが、そのあたりはどうか。

(学校) 生徒からは聞いていない。警察は高校生も指導していると言っているので、言ってきてないだけかもしれない。

(委員) 大学生は指導を受けている。

(委員) 事務室や教育環境部からの説明にもあったトイレのことだが、岡山県の事業を使い、PTAからの寄付という形で、夏休みと春休み期間中に洋式化の工事予定である。生徒アンケートの不満面が多少解消されるのではないかと思っている。また、来年度は男子トイレの小便器や手洗いも改善できればとPTAで検討していることを報告しておく。

(学校) 生徒の声は常に耳を傾けているが、PTAをはじめいろいろな方と連携し、環境を整えていきたいと思っている。

(委員) 学校運営協議会で最終的に評価をしていくことになるが、数値目標をあげてあるのは評価しやすくありがたい。すべてができるわけではないが、達成目標を見直せるのなら数値目標をあげてほしい。

国際交流について、今年度は交流できなかったとあるが、先方からの申し入れがなかったからなのか。できない場合の方策は考えているのか。

(学校) 校内の国際交流委員会で協議した結果、例えばオンラインでの交流ならば時差のないところで探っていき、生徒を募集して行っていくなどの方策は考えている。

(委員) 相手先が日本に来にくくなっているのか。

(学校) 相手先は受け入れについては可能とのことだが、日本に来たい時期が3月末頃だったためうまくいかなかったようである。

(学校) 地域におられる外国人の方との交流も考えている。何らかの形で生徒が国際交流できればと考えている。

(委員) 美作大学には留学生は多くないが、津山高専には留学生が多くいて、高専同士でも交流していると聞く。高専の留学生との交流も模索してみてもどうか。

(学校) 検討していく。

岡山県立津山東高等学校 学校運営協議会 委員一覧（敬称略 五十音順）

キャンパスショップラビット 代表取締役	門長 儀紘
岡山県立津山東高等学校 PTA会長	櫛田 晃稜
(株)マルイ 総務人事部次長	高橋 英資
津山市医師会理事 布上内科医院 院長	布上 朋和
美作大学/美作大学短期大学部 副学長	長谷川 勝一
津山市企画財政部みらいビジョン戦略室 室長	福田 論文
特定非営利活動法人みんなの集落研究所 研究員	三村 雅彦
津山市教育委員会 学校教育課 家庭・地域連携係 係長	室川 基
林田宮川町 町内会長	山名 敏和
岡山県立津山東高等学校 校長	山本 浩之